

# 新潟市潟環境研究所シンポジウム

**日時** 2019年2月10日(日) 13:30~16:30(受付12:30~)

**会場** 新潟国際情報大学中央キャンパス講堂  
(新潟市中央区上大川前通 7-1169)

**申込** 定員/先着180名 入場無料  
新潟市役所コールセンター(025-243-4894)へお申込みください  
※申込開始1月10日(木) 受付時間8:00~21:00 年中無休

参加者には『みんなの潟学』(潟環境研究所編)を会場にて差し上げます。

## ■プログラム

### 第1部 基調講演



「これからの新潟の湿地群のあり方を展望する  
—琵琶湖博物館の展開に学ぶ」

講師：嘉田由紀子 氏

前滋賀県知事、滋賀県立琵琶湖博物館元総括学芸員、農学博士



「諸外国における湿地復元の動向」

講師：関 健志 氏 公益財団法人日本生態系協会事務局長、

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会事務局長

### 第2部 パネルディスカッション みんなの潟学で「潟」を読み解く

《コーディネーター》 大熊 孝<河川工学>

《パネリスト(当研究所研究員兼執筆者)》 井上信夫<魚類>/太田和宏<歴史>

澤口晋一<地形>/志賀 隆<水生植物>/高橋郁丸<民俗>/吉川夏樹<農業水利>

# みんなの潟学

越後平野における新たな地域学

出版記念





この度、当研究所では、新潟を象徴する“潟”を読み解く本『みんなの潟学』―越後平野における新たな地域学』を出版しました。この本は、これまでの調査・研究の成果をもとに、地形、歴史、文化、民俗、動植物、利水など、多様な視点からふるさとの“潟”の姿を明らかにしたものです。

本シンポジウムでは、この本の出版を記念し、「水との共生」という思考の重要性をテーマに、今後の本市における自然環境のあり方を展望します。

なお、『みんなの潟学』は市立図書館などで閲覧や貸出しが可能ですが、本シンポジウム参加者には会場にて差し上げます。

## 第1部 基調講演講師プロフィール

**嘉田由紀子氏**：前滋賀県知事、滋賀県立琵琶湖博物館元総括学芸員、農学博士

利根川沿いの埼玉県生まれ。京都大学探検部員としてアフリカで水と環境の価値発見。ウイスコンシン大学大学院・京都大学大学院修了。琵琶湖博物館学芸員・京都精華大学教授を経て、2006年公共事業の見直し・子育てを訴え滋賀県知事に。6つのダムの凍結・中止。「流域治水条例」を全国で初めて制定。2014年勇退。「未来政治塾」塾長として若者・女性の政治参画を進める。

**関 健志氏**：公益財団法人日本生態系協会事務局長、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会事務局長

(財)日本鳥類保護連盟研究員として、キングマヘンドラ自然保護財団(ネパール)に2年間派遣される。その後、主任研究員として、主に野生鳥類、哺乳類の調査研究に従事したのち、平成3年に、サウジアラビア野生生物救護センターに派遣。平成4年より公益財団法人日本生態系協会、平成16年より公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務局長を兼任し、環境保全全般に関する業務に従事している。

## 第2部 パネルディスカッション出演者プロフィール



**大熊 孝**：潟環境研究所所長  
／新潟大学名誉教授

工学博士、専門は河川工学、土木史。川と人の関係がどうあればいいかを研究しており、川の自然環境、治水・利水のあり方を住民の立場を尊重しながら考察している。



**井上信夫**：潟環境研究所協力研究員  
／生物多様性保全ネットワーク新潟

専門は生物多様性・魚類。生物多様性保全ネットワーク新潟など、県内の環境NGOの役員を務め、外来生物対策や希少生物保護活動、自然体験活動を企画運営している。



**太田和宏**：潟環境研究所協力研究員  
／地域教育コーディネーター

専門は歴史・建物。地域教育コーディネーターや赤塚・佐潟歴史ガイド副会長を務めるほか、佐潟と歩む赤塚の会で、佐潟の保全・イベント活動を続けながら、人と自然の共存の在り方を日々模索している。



**澤口晋一**：潟環境研究所客員研究員  
／新潟国際情報大学教授

博士(地理学)。専門は自然地理学、地形学。高緯度極地と高山という高い所ばかりをフィールドとしてきたが、数年ほど前から越後平野の低地に降りて、特に新潟砂丘の地形とその中にみられる潟や池の成因を調べている。



**志賀 隆**：潟環境研究所客員研究員  
／新潟大学准教授

博士(理学)、専門は植物分類学・保全生物学。水辺の植物の多様性や生き様を調べる一方で、日本の豊かな水辺の植生を残すための研究を進める。



**高橋郁丸**：潟環境研究所協力研究員  
／新潟県民俗学会理事

専門は民俗学。新潟県内で探訪活動を受け、祭礼や口承伝承を調べている。現在は老若男女が親しみをもち「妖怪」の情報も調べている。



**吉川夏樹**：潟環境研究所客員研究員  
／新潟大学准教授

博士(農学)、専門は農業水文学、農業土木学。「田んぼダム」による水害抑制と水質改善、水田を介した放射性セシウムの挙動など、農業に関わる水の研究を多岐にわたって行う。



### 司会プロフィール

**隅 杏奈**：潟環境研究所事務局研究員

山口県出身。新潟市の自然環境や潟のある暮らしに興味をもち移住。記録映像「潟の記憶」(2015年度)の制作や「みんなの潟学」執筆・編集担当。

## 新潟市潟環境研究所プロフィール

本市には、地域の暮らしに根差した「里潟(さとかた)」ともいうべき個性豊かな潟が多く残っています。当研究所は、これらの潟と人とのより良い関係を探求し、潟の魅力や価値を再発見・再構築するため、2014(平成26)年4月に発足しました。潟に関わる多くの皆さまと連携しながら、自然環境や歴史、暮らし文化などについて、調査・研究を進めています。

新潟市 **潟のデジタル博物館**  
NIIGATA City Wetland Digital Museum

新潟市内に点在する湖沼「潟」に関わる資料や情報をまとめたデジタル博物館です。  
URL <http://www.niigata-satokata.com/>



※この事業はにいがた未来ポイント対象事業です。